# 平成２７年度第２回柴田町男女共同参画推進審議会　議事概要

**【日　時】**

平成２７年１１月２４日（火）　午後３時～５時

**【場　所】**

柴田町役場２階　特別会議室

**【出席者】**

柴田町男女共同参画推進審議会委員　７名（別紙のとおり）

事務局（柴田町まちづくり政策課）　２名

**【資　料】**

①第４次しばた男女共同参画プラン施策策定に係る事前分析シート

②第４次しばた男女共同参画プラン施策ツリー（案）

**【議　事】**

進行：事務局（平間）

※審議会は公開とされているため、録音機器で協議を録音したものをもとに議事概要を作成し、町ホームページで公開する旨を説明。

## １．会長あいさつ

あっと言う間に１１月になってしまいました。

秋からＮＨＫの朝ドラで「あさが来た」というドラマが始まりました。広岡浅子というのは、実は日本女子大を作った女性と言われています。私は２０代の時に日本女子大にスクーリングで通っていました。同じ世代の学生たちもいたのですが、その中には、腰の曲がったおばあちゃんがいました。その方は、退職金を使って学位を取ろうと頑張っていて熊本から東京に通っていて、そのファイトに圧倒された事を思い出しました。まさに朝ドラを見ながら、男女共同参画を考えるいろんな視点が周囲にあるなと最近気づかされております。今日もより具体的な議論が交わされますよう皆様よろしくお願いいたします。

## ２．議題

**審議　　第４次しばた男女共同参画プラン策定に係る施策の整理について**

＜事務局＞

前回の審議会でご説明しておりますとおり、関係各課に施策策定に係る事前分析シートの作成を依頼しました。作成にあたっては第５次柴田町総合計画後期基本計画（以下「後期基本計画」という）と第４次男女共同参画基本計画策定にあたっての基本的な考え方（素案）（以下「基本的な考え方」という）を踏まえた上で、柴田町としてどんな取り組みができるか検討いただきました。それを基本的な考え方に沿って考えられているかを確認するためまとめたものが、今回資料として提出している施策ツリーです。

施策ツリーの表中で空欄の箇所については、各課から施策案が提出されておりません。

今後、関係課とは内容の調整を図っていく考えですが、審議会の意見も取り入れながら進めてまいりますので、現状に対してご意見くださいますようお願いいたします。

＜会長＞

活力のある町になるために、どこからどのように事業を実施していくべきか、また、もうちょっと付け加えてほしいなど、審議会委員の皆様からご意見をお願いします。

＜大槻委員＞

事業実施の難易度においてＤ、Ｅ、Ｆは、町で頑張って達成してほしい。

国の考え方をすべて網羅することは不可能なので、今回のシートで難易度が高い防災と女性と農業の３分野においては重点項目を掲げ取り組んではどうか。

世の中には男尊女卑がずっと根底にある。男女の幸せは当たり前で、その上に社会で男女がどのような協力ができていくかということを目指していかなければ、いつまでもステップアップできない。

＜大沼委員＞

柴田町においての得意分野、核になる事業を深めていってはどうか。手を広げただけで、何も成さないということもある。農業はもともと地場にあったもだし、防災分野においても、すでに婦人防火クラブがあって、それをうまく活用していく方法なども考えていってほしい。いずれの分野においても、形が変わらなければ若い人が入りにくいということがあるので、そのあり方の検討も行っていく必要がある。男尊女卑ではなく役割分担という意識で多くの人に理解いただけるよう身の丈に合った施策を提案、展開していってほしい。

＜八島委員＞

すべての事業を一気に進めることは難しく、絞って実施することも必要だと考える。男性が多い分野であっても、最近ではその男性すら参加が少なくなっている中で、女性を取り込んでいくというのはなかなか厳しいのではないか。

＜伊藤委員＞

基本的な考え方のⅡ－８貧困、高齢、障害等により困難を抱えた女性等が安心して暮らせる環境の整備に関する項目が施策の事前分析シートから目標達成のための手段が全部で１３項目も挙げられている。緊急度の高いものも見受けられるので、よく整理して取り組んでほしい。

＜牛澤委員＞

女性の管理職を増加させるためには、女性の採用はもとより、管理職するための教育も必要と考えている。町では、女性職員の採用比率や、その後の教育をどのように行っているのか。

＜事務局＞

採用試験は筆記試験と面接の２つの試験を行います。最近では、女性の採用が半分以上になる傾向にある。女性人材の育成には取り組んできていないし、女性職員自身も、管理職になりたくないという方もいる。

＜青木副会長＞

学校教育の中では、男女差別を排除した教育が進められており、私の出身高校は、男子校だったのが共学になり、応援団長も生徒会長も女性が活躍していて、女性の活動が顕著に表れてきている。反面、男性が意欲をなくしてきているように思われる。女性は自分の中での選択肢を多くもって活動しているので、単に女性を男性に近づけるのではなく、男性と女性それぞれの特性が生かされる社会になるよう考えていかなければならない。

＜作山会長＞

今年は国際防災会議が仙台で開催されました。その中で、性差を超えて地域を守る、男性も女性も役割があるのだということが随所にテーマとして挙げられていた。

また厚生労働省がソーシャルキャピタル（社会関係資本）を強化し、地域の健康づくりに特化していきたい、そのためには地域の中で核となる人材を発見して育てていくということを打ち出してきている。学生と一緒に２つの仮設住宅でボランティアをしているが、婦人部長のような核となる人材がいる仮設住宅のほうがまとまりがある。

こういったことを小学校など小さい頃からの教育で取り上げ、併せて保健師にも協力をもらって健康教育を実施するなどしていけば、お互いの性を大切にするきっかけにもなるのではないか。

＜大沼委員＞

多様性を認め合って、それにどう対応していくかということが重要となってくる。あまり仕組み作りに力を入れるのではなく、まずやってみて、駄目だったら方向転換するというようなフットワークを軽くして、できるところから手を付けていかないと、議論ばかりが先行して、実際に進まないので、まずは手をつけられるところから頑張ってみて成功体験を増やしていくということも重要ではないか。

＜大槻委員＞

目標値が出ているのであれば、その目標を阻害する要因は何なのか。それを見つけて事業を展開していければ十分ではないか。

＜作山会長＞

農業というのも柴田町にとってはキーワードになってくると思うがいかがか。

＜牛澤委員＞

認定農業者を０人から目標値１人となっている。難しいと思うがこういうところを、ぜひ進めていってほしいと思う。

＜青木副会長＞

女性の特性と言いますか、男性の場合だと１日をとおして仕事があれば就職するが、女性の場合２～３時間の短い時間で、自分が楽しんでできる仕事を求める人が多いように思う。無理に一緒にするのではなく、いろいろな分野で男女それぞれが活躍できる環境を作っていければいいのではないか。

＜大沼委員＞

段々とお金ではなく、自分の生き方とか満足度を優先する人が増えてきている。特に女性にはその傾向が強い。実力がある女性職員を管理職にしたくても、本人から断られるケースもある。優秀であっても、最低限必要なお金があって育児や家庭にかける時間を確保したいという人材を、今後は雇用する側がどう活用していくかということも考えていかなければならない時代になっているのではないか。

＜大槻委員＞

確かに、女性は細かい作業に気がきいたりするが、それを生かすためには、作業をまとめるリーダーがいなければならない。男女問わないが人材の育成ということは欠かせない。

＜作山会長＞

いろいろな価値観など多様性を認めあわなければならないということ、あとは食べることは命に直結するので、柴田町にとって農業というのもキーワードなのかなと思います。

＜青木副会長＞

誰かが上にたって引っ張っていかなければ一つの仕事として成り立っていかない。リーダーは自然と育っていくものなのかもしれないが、町としてそのリーダーをどう育てて活用していくかというのを考えて、人材的や資金的なバックアップをしていってほしい。

＜伊藤委員＞

テレビ番組で中小企業と銀行がタイアップして、計画から利益性など一緒に支援していくという事業を観た。柴田町もそのような支援を考えてみてはどうか。

＜牛澤委員＞

妊娠・出産等に関する健康支援という項目のところに、専門職員（保健師等）の増員という施策があり、とても良いと思った。同時に小さい頃から大人になるまで、子どもの面倒だけでなく、親の悩みや相談を受ける環境も充実するとよい。

＜事務局＞

本日の提案については、今あるものから、身近に、身の丈にあったところから考えていきたい。議論の中で“多様性”という言葉が多く出たので、このことを踏まえた構成にし、たたき台として次回までまとめる。

## ３．その他

＜事務局＞

本日出席いただきました報酬については１２月１５日の支払いを予定しています。

次回の審議会開催は**１月２８日（木）**とします。

## ４．閉会

**【本審議会の審議内容のまとめ】**

・施策の空白部分について、各課にもう一度確認する。

・本日の提案をもとにたたき台を作成する。